

令和2年度 奈良県森林技術センター研究成果発表会 発表内容の概要

開催日時：令和3(2021)年2月24日(水)14:00～16:05

開催方法：オンライン会議システム(Webex Meetings)によるWeb開催

〈主要成果〉

- 1 高級菌根性きのこ栽培技術の開発(H27～R1年度)
マツタケやトリュフなどのきのこは、生きた植物の根と共生する菌根性きのこであり、菌根性きのこは一般に栽培が困難である。これら菌根性きのこのうち、マツタケ類縁種であるバカマツタケは、広葉樹林に発生し、色・形・香りがマツタケに酷似しているきのこである。このバカマツタケについて、人工的に野外に接種して栽培を試みたのでその結果を紹介する。
- 2 奈良県産スギ材・ヒノキ材を用いた防音フローリングの開発(H30～R1年度)
集合住宅等において県産スギ、ヒノキ材の無垢フローリングの利用が進まない現状があり、要因の一つに防音性の低さがある。そこで、優れた防音性能を得るための木材の加工条件や各種の緩衝材を検討して直張り用の防音フローリングの開発を行った。その結果△LL-4(LL-45)を満たす条件を見いだした。

〈話題提供〉

- 3 奈良県が取り組む新たな森林環境管理
混交林誘導を支援する広葉樹コンテナ苗生産体制の準備
奈良県では令和2年4月1日に、「奈良県森林環境の維持向上により森林と人との恒久的な共生を図る条例」を施行した。この条例に基づく森林の多面的機能を高度に発揮させるための取組とその課題について紹介する。また、この取組の一つである「混交林への誘導整備」を具体的に実現する際に必要となる「地域の特性に応じた樹木の苗木」について、奈良県の種苗生産の現状を踏まえた今後の課題・体制づくり等について考える。
- 4 黒色部を含む県産スギ材の市場価値向上に向けた材質評価
材色が赤～ピンクの吉野スギの原木は高価格で取引されるものの、材色が黒っぽい又は黒い縞を含むと安価となり、搬出費用を下回ることもある。そこで、色が優良な材と劣る材で各種の材質試験を行い、科学的データから適する用途を提案し、黒色部を含むスギ材の市場価値の向上を目指す。